木更津市立小学校及び中学校の適正規模及び本市域における適正配置のあり方について

～教育都市きさらづの実現に向けて～

答　申

令和元年１０月２日

木更津市立小中学校適正規模等審議会

目　　次

はじめに …… 1

Ⅰ　本市における小中学校の規模等の現状 …… 2
　１　年度別児童・生徒数の推移 …… 2
　２　学校別児童・生徒数の推移 …… 3
　３　学校別学級数の推移 …… 5
　４　学校別規模、施設、配置等の現状 …… 7

Ⅱ　本市における小中学校の適正規模 …… ２４

Ⅲ　本市における小中学校の適正配置のあり方 …… ２７
　１　課題整理のポイント …… ２７
　２　適正配置に向けての学校規模別の方策 …… ２７
　３　適正配置に向けての学校ごとの方策 …… ２８
　（１）学校ごとの方策 …… ２８
　（２）学校予定地の利活用 …… ３５

まとめ …… ３６

※　本審議会で活用した「資料」、「諮問書（写）」、「木更津市立小中学校適正規模等審議会委員名簿」、「木更津市立小中学校適正規模等審議会開催状況」については、資料編をご参照ください。

はじめに

全国的には人口減少、少子化時代を迎えていますが、本市においてはアクアラインや高速館山自動車道等の開通により、対岸大都市への近接性が向上し、多くの大型商業施設の開業や大規模な宅地開発の進行によって人口が増加しています。

特に新興住宅地域においては、子育て世代の人口増加に伴い、児童生徒数も急増しており、学校施設が不足し、校舎の増築が必要となっています。

一方、人口減少が進む地域もあり、学校によっては児童生徒の増加を図るために小規模特認校制度を活用して通学区域を拡大し、地域の方々の協力を得て、地域の特性を活かした学習活動を展開している学校もあります。さらに、複式学級を設置せざるを得ない小規模校が出て来ることから、適正規模を図るために統合等について検討を行う必要があると考えます。

このような状況の中、本審議会は、平成３０年７月１８日に木更津市教育委員会から「木更津市立小学校及び中学校の適正規模及び本市域における適正配置のあり方について」の諮問（資料編、「諮問書（写）」参照。）を受けました。

この諮問に応えるために、①学校間の教育水準の均衡を保持すること、②よりよい教育環境を整備する方策について、③適正規模及び適正配置のあり方と今後の展望について、等、これまでの基本方針を全市的に見直すことが求められました。

本審議会では、平成３０年度は市内小中学校の現状と課題の整理、本市における適正規模のあり方について検討、小規模校、大規模校等の現地視察を行いました。さらに、令和元年度は適正配置に向けての学校ごとの今後の方策と展望についてまとめました。

９回に及ぶ審議会においては、委員の皆様から積極的に多くのご意見をいただき、今般「木更津市立小学校及び中学校の適正規模及び本市域における適正配置のあり方について（答申）」を取りまとめましたので、今後の教育行政に活用されることを期待し、木更津市教育委員会へ答申いたします。

令和元年１０月２日

木更津市立小中学校適正規模等審議会

会長

Ⅰ　本市における小中学校の規模等の現状

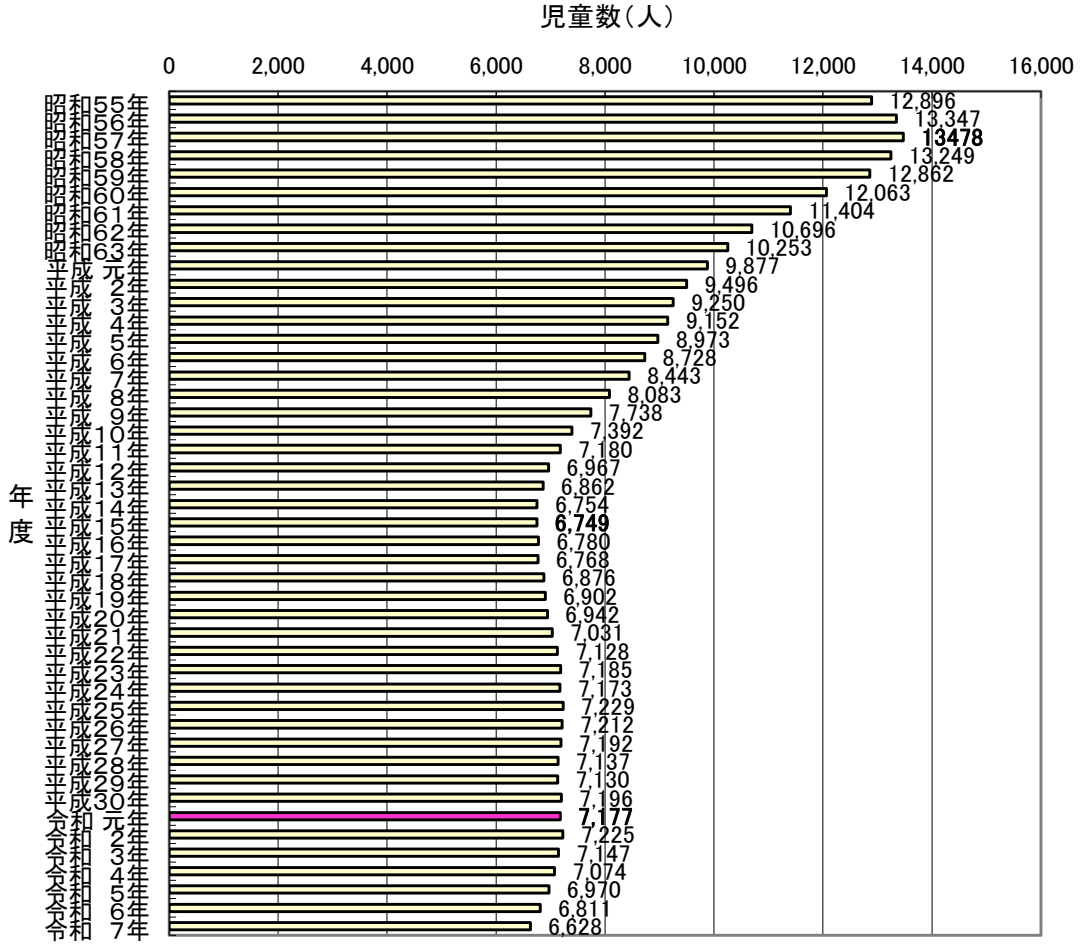
１　年度別児童･生徒数の推移

まず、木更津市の児童生徒数の推移を見ると、児童数は昭和５７年度の１３，４７８人をピークに、平成１５年度まで減少を続け、平成１５年度には６，７４９人と、ピーク時の５０．１％となりました。その後、微増、微減を経て、令和元年度には７，１７７人となり、平成１５年度と比較して６．３％の増加となっています。

生徒数は昭和６０年度の６，９６７人をピークに、平成２０年度まで減少を続け、平成２０年度には３，２３２人と、ピーク時の４６．４％となりました。その後、微増、微減を繰り返し、令和元年度には３，４８５人と、平成２０年度と比較して７．８％の増加となっています。

また、住民基本台帳で、児童生徒数の令和７年度までの推移を見ると、児童数はやや減少傾向、生徒数はほぼ横ばいと予測されています。

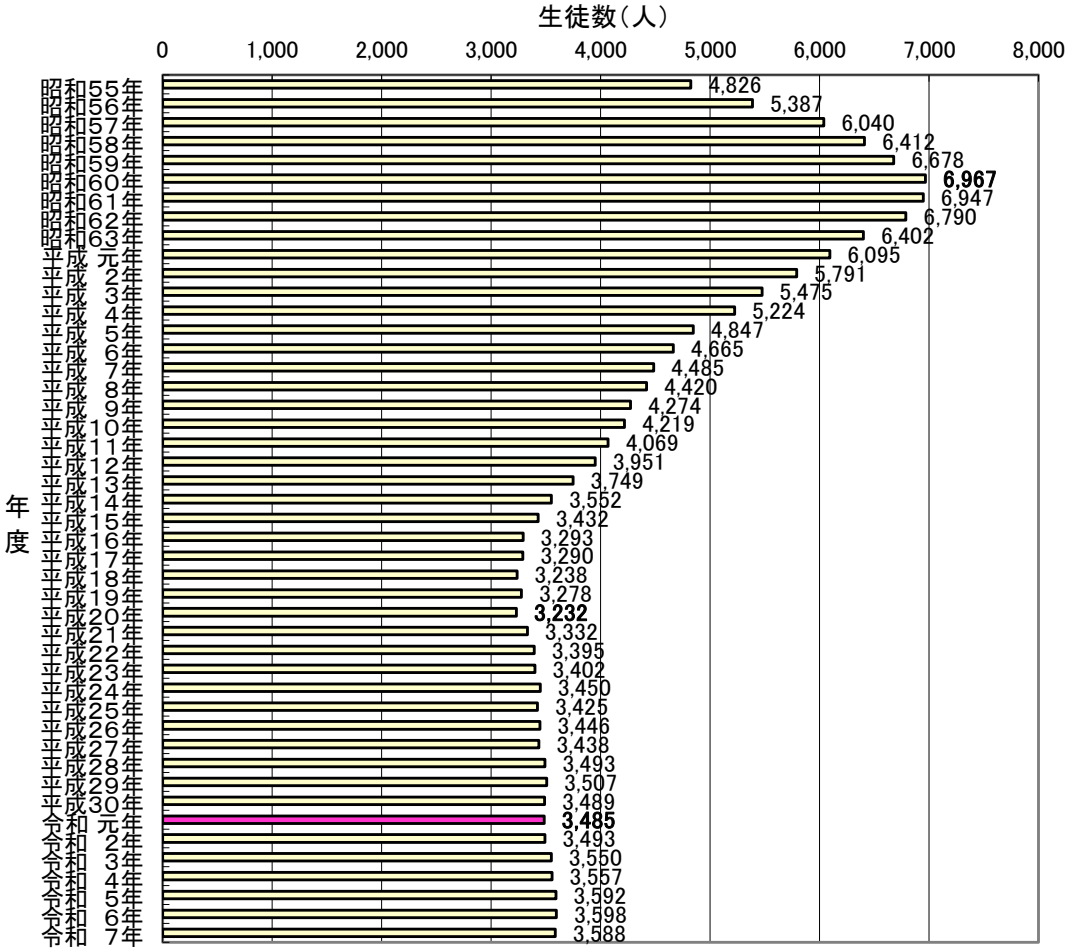
小学校児童数推移



※令和元年度までは各年５月１日現在の人数

※令和２年度以降は住民基本台帳による推計

中学校生徒数推移



※令和元年度までは各年５月１日現在の人数

※令和２年度以降は住民基本台帳による推計

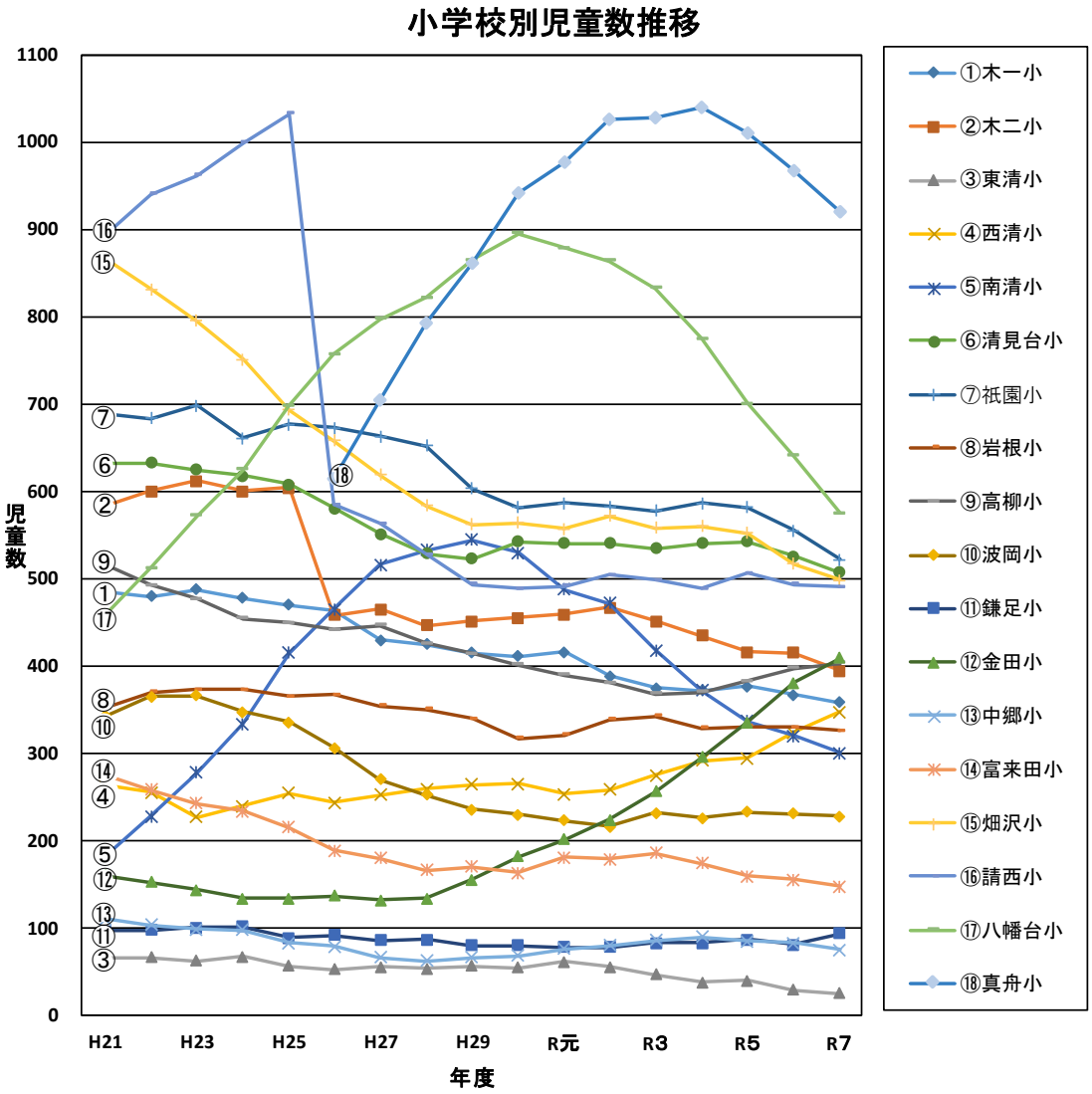
２　学校別児童･生徒数の推移

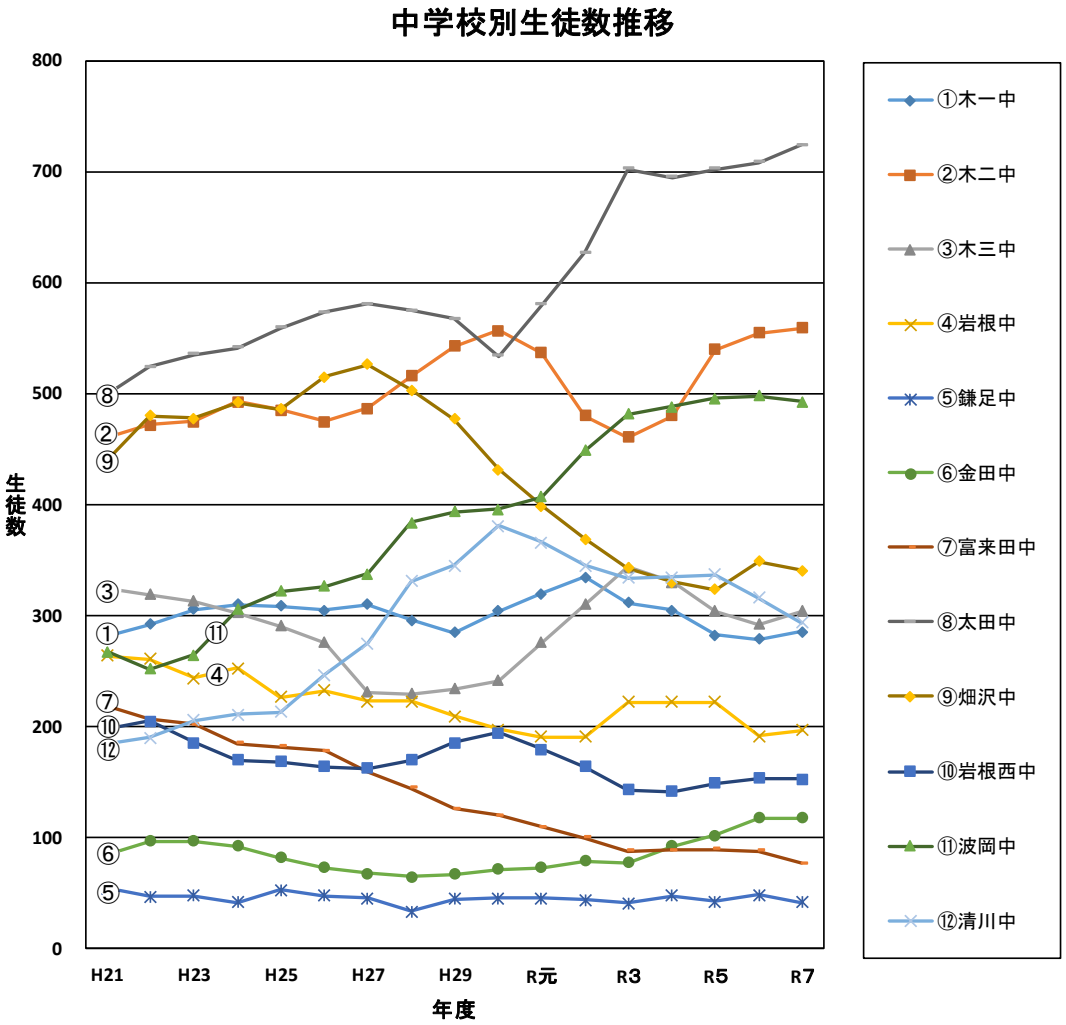
過去の歴史を遡りますと、平成１６年度には、児童生徒数が減少する学校がある一方で、宅地開発の進展により児童生徒数が増え、教室不足をきたす恐れのある学校があるといった学校間の不均衡に対応するため、「木更津市立小学校及び中学校通学区域審議会」が設置され、平成１８年４月１日から一部小中学校の通学区域の見直しを行いました。対象校は、木更津第二小学校、南清小学校、清見台小学校、波岡小学校、畑沢小学校、請西小学校、木更津第二中学校、太田中学校、清川中学校でした。

その後、平成２９年５月には、「木更津市人口急増地区における通学区域の見直しに関する基本方針」が策定されたことを受け、真舟小学校、請西小学校、木更津第二中学校、太田中学校、清川中学校、木更津第三中学校において通学区域の変更を行いました。真舟小学校と請西小学校については、平成２９年７月に木更津第二中学校と太田中学校、清川中学校と木更津第三中学校については、平成３１年４月から通学区域の変更を行いました。

そして現在ですが、学校別児童生徒数の推移を見ると、土地区画整理事業が進んでいる金田地区は、今後、児童生徒数の大幅な増加が予想されます。また、現在、児童数の多い真舟小学校、八幡台小学校の児童の中学校進学にあたり、太田中学校や波岡中学校の生徒数が大幅に増加することが予想されます。また、請西千束台地区も将来的には児童生徒数が増える可能性があります。

なお、近年の人口急増地区としては、請西南地区、請西東地区、羽鳥野地区、ほたる野地区が挙げられますが、これらの地区においては今までのように人口が急増する可能性は低いと考えます。また、それ以外の地区及び学校においても、児童生徒数はほぼ横ばいか減少傾向となっています。

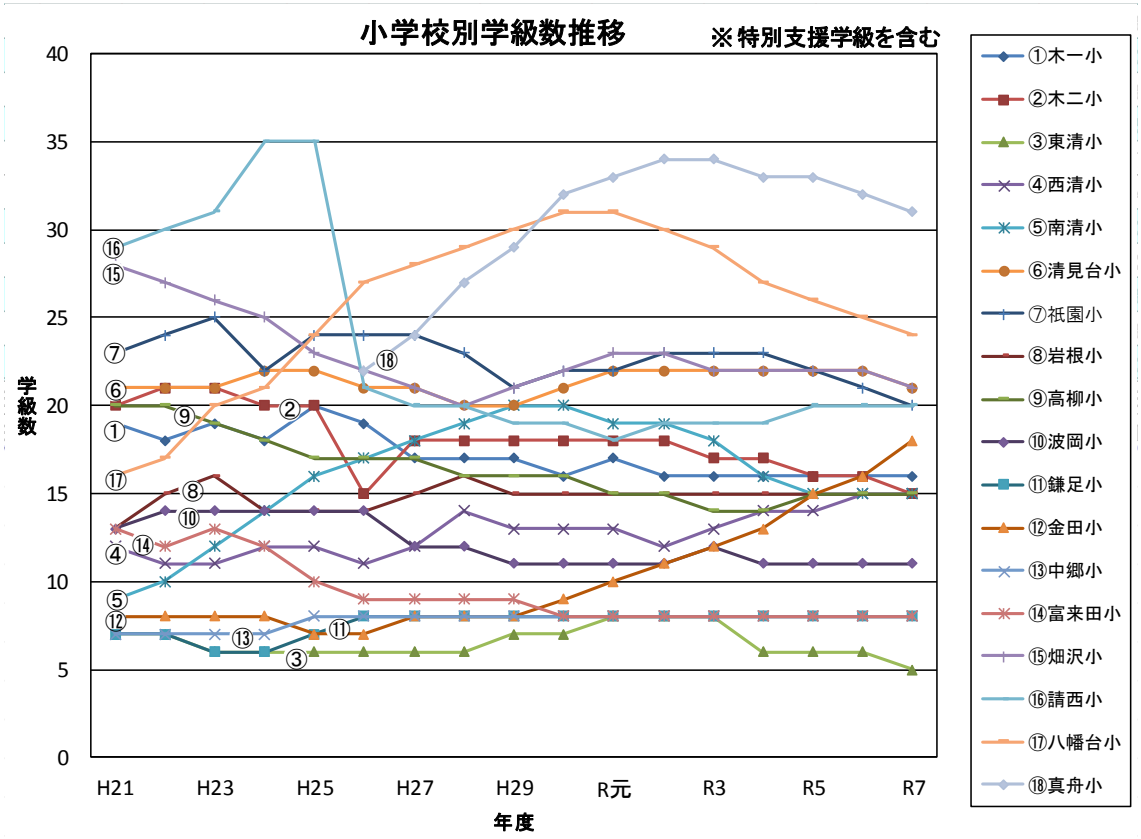


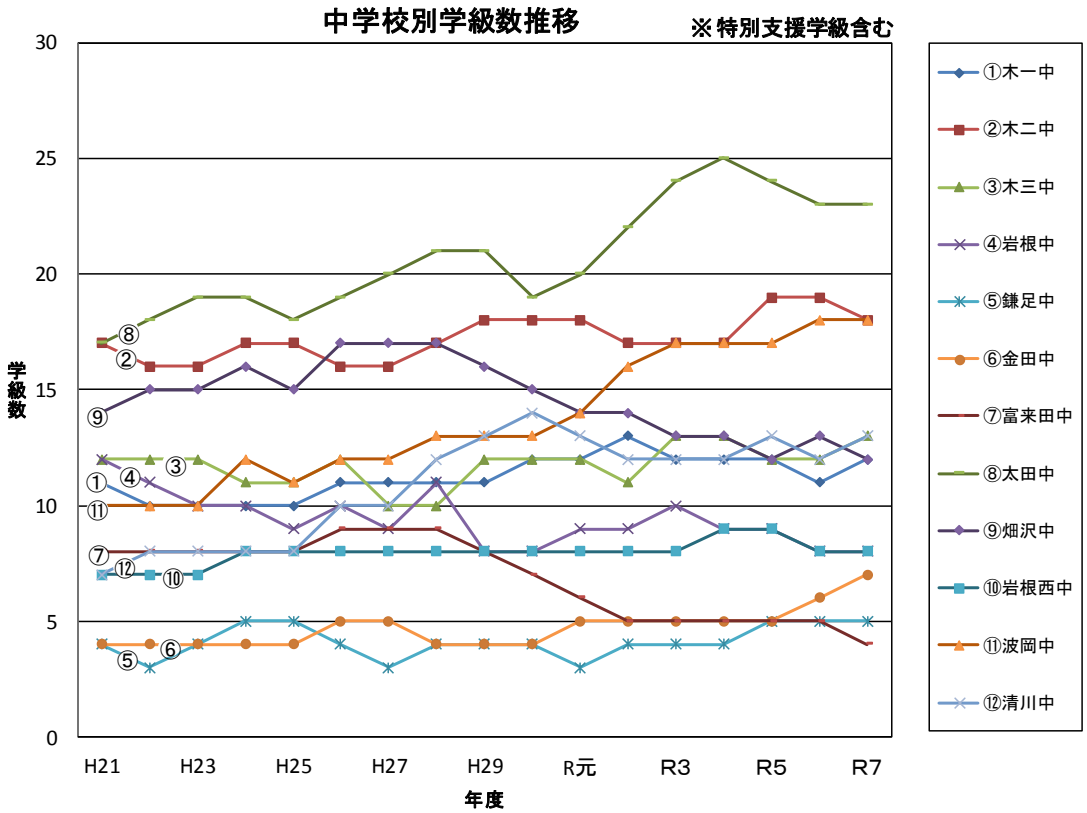


３　学校別学級数の推移

次に、学級数をみると、現在、小学校はピーク時の昭和５６年度・昭和５７年度の３５６学級から２９９学級に、中学校はピーク時の昭和６１年度の１７８学級から１３４学級にそれぞれ減少し、ピーク時の、小学校は８３．９％、中学校は７５．２％となっています。

小中学校における学級数は、児童生徒数の推移に概ね比例しており、児童生徒数の急増が予想される金田小学校、金田中学校、太田中学校、波岡中学校等は学級数も増加し、児童生徒数の著しい減少が予想される東清小学校、南清小学校、八幡台小学校等は学級数も減少する見込みであり、今後の学級数の動向も、児童生徒数によって学校間に大きな差が生じるものと予想されます。


小学校別学級数推移
※特別支援学級を含む
学級数
年度
H21
H23
H25
H27
H29
R元
R3
R5
R7
①木一小
②木二小
③東清小
④西清小
⑤南清小
⑥清見台小
⑦祇園小
⑧岩根小
⑨高柳小
⑩波岡小
⑪鎌足小
⑫金田小
⑬中郷小
⑭富来田小
⑮畑沢小
⑯請西小
⑰八幡台小
⑱真舟小


中学校別学級数推移
※特別支援学級含む
学級数
年度
H21
H23
H25
H27
H29
R元
R3
R5
R7
①木一中
②木二中
③木三中
④岩根中
⑤鎌足中
⑥金田中
⑦富来田中
⑧太田中
⑨畑沢中
⑩岩根西中
⑪波岡中
⑫清川中

４　学校別規模、施設、配置等の現状

本市における各小中学校の個別の現状と課題を整理しました。

＜表の見方について＞

（１）児童生徒数

令和元年度は５月１日現在の数値であり、令和２年度以降は、令和元年５月１日現在の住民基本台帳からの推計値です。

（２）学級数

上段が通常学級数、下段の（　）内は特別支援学級数です。

国が定める学級編制基準は、「小学１年生は３５人学級、小学２～６年生、中学１～３年生は４０人学級」となっています。

更に、千葉県は「小学２～３年生、中学１年生は３５人学級編制を選択することが可能」、「小学４～６年生、中学２～３年生は３８人学級編制を選択することが可能」となっていますので、これらをもとに通常学級数を算出しています。

（３）特別支援学級

障がいの種別ごとに設置され、１学級の定員を８人とする学級であり、小学校は令和元年度の学級数が令和７年度まで続くものとして算出しています。中学校については、小学校において特別支援学級に在籍している児童が、中学校でも特別支援学級に在籍したものとして算出しています。

（４）就学可能学級数から外す教室（特別教室）について

全ての学校において、通常の教室とほぼ同等の大きさがある教室は就学可能学級数として計算していますが、以下の教室については、通常の教室の大きさであっても就学可能学級数から外しています。

・音楽室　・図工室　・家庭科室　・ＰＣ室　・理科室　・美術室　・技術室
・通級教室　・図書室（全校で使用するもの）

（５）将来的な児童・生徒数の展望について

令和元年度と令和７年度を比較して以下のように整理しました。

〇児童・生徒数の割合が１２５％以上になっている・・・・・・大幅な増加傾向
〇児童・生徒数の割合が１１５％～１２４％になっている・・・増加傾向
〇児童・生徒数の割合が１０５％～１１４％になっている・・・やや増加傾向
〇児童・生徒数の割合が９５％～１０４％になっている・・・・ほぼ横ばい
〇児童・生徒数の割合が８５％～９４％になっている・・・・・やや減少傾向
〇児童・生徒数の割合が７５％～８４％になっている・・・・・減少傾向
〇児童・生徒数の割合が７４％以下になっている・・・・・・・大幅な減少傾向

＜その他＞

（１）表における用語の説明

○小規模特認校制度

特色ある学校づくりをより推進するため、及び複式学級の児童生徒数の増加を図るために平成２５年度から実施している制度です。１校の受け入れ人数は、小学校においては総児童数１２０名程度、中学校においては総生徒数６０名程度、かつ、小中学校ともに１学年につき２０名程度となるよう、毎年度教育委員会が定めています。

○複式学級

２つ以上の学年を一つに編成した学級です。小学校では、１年生を含む場合は８名、２～６年生は１６名以内の場合が複式学級となります。また、中学校では、８名以内の場合が複式学級となります。

（２）学校給食について

本市は、以下のとおり２つの方式を取り入れています。

○親子方式･･･自校内に給食の調理施設を持つ学校が、自校の給食に加えて、近隣の学校の給食を調理し、配送する方式（２０校）

○センター方式･･･複数の学校の給食を一ヵ所の給食センターで一括して調理し、配送する方式（１０校）

《小学校１８校》

木更津第一小学校

児童数・学級数の推移	年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	児童数	416	388	375	372	377	367	358
	学級数	13 (4)	12 (4)	12 (4)	12 (4)	12 (4)	12 (4)	12 (4)
施設関係	建設年度		就学可能学級数			他の用途で使用している教室		
	H21		19			4		
	他の用途で使用している教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況							
	児童会室１、ＴＴルーム1、教育相談室１、視聴覚室１							

現状と課題	1 教室は足りているか	・足りている。
	2 敷地面積は十分か	・国の設置基準を満たしている。
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道２km以内である。
	5 将来的な児童数の展望は	・やや減少傾向と予想される。
	6 学校の位置は適当か	・学区のほぼ中心部に位置している。
	7 その他	・学区全域は中心市街地を形成している。
		・通学区域内に大型マンションの建築が予定されている。
		・平成２１年度、校舎を改築した。
		・特別支援学級の4学級のうち2学級については、普通教室より小さい教室を使用しているため、就学可能学級数に含まれていない。
		・木更津市学校給食センター受配校である。

木更津第二小学校

児童数・学級数の推移	年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	児童数	459	467	451	435	416	415	394
	学級数	16 (2)	16 (2)	15 (2)	15 (2)	14 (2)	14 (2)	13 (2)
施設関係	建設年度		就学可能学級数			他の用途で使用している教室		
	S45・46・ 47・51		25			7		
	他の用途で使用している教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況							
	会議室１、多目的室２、算数教室１、絵本の部屋１、 なかよしプレイルーム１、児童会室１							

現状と課題	1 教室は足りているか	・足りている。
	2 敷地面積は十分か	・十分である。
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道３ｋｍ以内である。
	5 将来的な児童数の展望は	・やや減少傾向と予想される。
	6 学校の位置は適当か	・学区の北部に位置している。
	7 その他	・学区は市街地に隣接し、商業・準工業地及び住宅地としての様相を呈している。
		・学区には国道幹線及びバイパス道路があり、交通量が極めて多い。
		・真舟小学校の開校に伴い、平成２６年度から真舟地区が木更津第二小学区から真舟小学区となった。
		・一部地域から、交通機関(バス)を利用する児童がいる。
		・木更津市学校給食センター受配校である。

東清小学校

児童数・学級数の推移	年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	児童数	61	55	46	38	40	29	25
	学級数	6 (2)	6 (2)	※6 (2)	4 (2)	4 (2)	4 (2)	3 (2)

施設関係	建設年度	就学可能学級数	他の用途で使用している教室
	S41・52・56	9	2
	他の用途で使用している教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況		
	学童保育へ貸与１、会議室１		

現状と課題		
	1 教室は足りているか	・足りている。
	2 敷地面積は十分か	・十分である。
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道４km以内である。
	5 将来的な児童数の展望は	・大幅な減少が予想される。
	6 学校の位置は適当か	・学区の北西部に位置している。
	7 その他	・建物敷地と運動場に借用地がある。
		・令和４年度からは弾力的運用を行っても、複式学級ができる可能性がある。
		・小規模特認校である。
		・給食は親子方式であり、自校で調理している。
		・特別支援学級の１学級については、普通教室より小さい教室を使用しているため、就学可能学級数に含まれていない。

※本来は複式学級になるところを増置教員を活用し、複式学級化を防いでいる。

西清小学校

児童数・学級数の推移	年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	児童数	253	258	275	291	294	324	347
	学級数	10 (3)	9 (3)	10 (3)	11 (3)	11 (3)	12 (3)	12 (3)

施設関係	建設年度	就学可能学級数	他の用途で使用している教室
	S43・44	15	2
	他の用途で使用している教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況		
	資料室１、多目的室１		

現状と課題		
	1 教室は足りているか	・７年度までは足りる予定である。
	2 敷地面積は十分か	・国の設置基準を満たしている。
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道４km以内である。
	5 将来的な児童数の展望は	・大幅な増加が予想される。
	6 学校の位置は適当か	・学区の南部に位置している。
	7 その他	・学区には国道１６号バイパス道路と旧道が並行して走り、交通量が多い。
		・建物敷地と運動場に借用地がある。
		・給食は親子方式であり、中郷小で調理したものである。

南清小学校

児童数・学級数の推移	年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	児童数	487	472	418	372	337	320	300
	学級数	16 (3)	15 (3)	14 (3)	13 (3)	12 (3)	12 (3)	12 (3)

施設関係	建設年度	就学可能学級数	他の用途で使用している教室
	H20・25	25	6
	他の用途で使用している教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況		
	児童会室１、教育相談室１、PTA会議室１、 教材室（物置）１、学童保育１、共有ルーム１		

現状と課題	
1 教室は足りているか	・足りている。
2 敷地面積は十分か	・十分である。
3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。
4 通学距離は適当か	・一部片道４kmを超える地域がある（５km以内）
5 将来的な児童数の展望は	・大幅な減少が予想される。
6 学校の位置は適当か	・学区の北西部に位置している。
7 その他	・学区の一部が主要道路によって分断されている。
	・宅地開発、大型商業店舗の進出により、市街地としての状況を見せ、児童数が急増した。
	・児童数の急増に伴い、平成２５年度に新たに校舎を増築した。
	・給食は親子方式であり、東清小で調理している。

清見台小学校

児童数・学級数の推移	年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	児童数	541	540	535	541	542	526	507
	学級数	18 (4)	18 (4)	18 (4)	18 (4)	18 (4)	18 (4)	17 (4)

施設関係	建設年度	就学可能学級数	他の用途で使用している教室
	S45・46・56	30	8
	他の用途で使用している教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況		
	研修室１、低学年図書室１、資料室３、国際理解教室１、 教材室１、児童会室１		

現状と課題	
1 教室は足りているか	・足りている。
2 敷地面積は十分か	・十分である。
3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。
4 通学距離は適当か	・学区全域が片道２ｋｍ以内である。
5 将来的な児童数の展望は	・やや減少傾向と予想される。
6 学校の位置は適当か	・学区の北部に位置している。
7 その他	・住宅地と商業地が一体化した地域であり、教育施設も多く見られる。
	・建物敷地と運動場に借用地がある。
	・木更津市学校給食センター受配校である。

祇園小学校

児童数・学級数の推移	年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	児童数	586	583	578	586	582	555	522
	学級数	18 (4)	19 (4)	19 (4)	19 (4)	18 (4)	17 (4)	16 (4)

施設関係	建設年度	就学可能学級数	他の用途で使用している教室
	S49・50・53・56	33	11
	他の用途で使用している教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況		
	児童会室１、ＴＴルーム３、多目的室１、会議室１、生活科室１、ランチルーム１、ＰＴＡ室１、予備室１、低学年図書室１		

現状と課題		
	1 教室は足りているか	・足りている。
	2 敷地面積は十分か	・十分である。
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道２km以内である。
	5 将来的な児童数の展望は	・やや減少傾向と予想される。
	6 学校の位置は適当か	・学区のやや東部に位置している。
	7 その他	・学区の大部分が宅地造成地であり、戸建住宅・社宅とも多い。
		・給食は親子方式であり、自校で調理している。

岩根小学校

児童数・学級数の推移	年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	児童数	321	338	342	339	331	330	326
	児童数	12 (3)	12 (3)	12 (3)	12 (3)	12 (3)	12 (3)	12 (3)

施設関係	建設年度	就学可能学級数	他の用途で使用している教室
	S42・43・53	32	18
	他の用途で使用している教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況		
	児童会室１、会議室２、生活科室１、少人数教室５、相談室１、資料室１、教材室１、学童室２、備品庫１、ボランティアルーム１、用具庫１、倉庫１		

現状と課題		
	1 教室は足りているか	・足りている。
	2 敷地面積は十分か	・十分である。
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道３km以内である。
	5 将来的な児童数の展望は	・ほぼ横ばいと予想される。
	6 学校の位置は適当か	・学区の東端に位置している。
	7 その他	・ＪＲ内房線の西側の旧市街地である。
		・運動場に借用地がある。
		・特別支援学級の1学級については、普通教室より小さい教室を使用しているため、就学可能学級数に含まれていない。
		・給食は親子方式であり、自校で調理している。

高柳小学校

児童数・学級数の推移	年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	児童数	389	381	368	370	383	397	403
	学級数	13 (2)	13 (2)	12 (2)	12 (2)	13 (2)	13 (2)	13 (2)
施設関係	建設年度		就学可能学級数			他の用途で使用している教室		
	S46・48・ 53・55		26			11		
	他の用途で使用している教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況							
	児童会室１、学年集会室６、更衣室１、英語ルーム１、 多目的室１、会議室１							

現状と課題	1 教室は足りているか	・足りている。
	2 敷地面積は十分か	・十分である。
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道３．５km以内である。
	5 将来的な児童数の展望は	・ほぼ横ばいと予想される。
	6 学校の位置は適当か	・学区の北東部に位置している。
	7 その他	・ＪＲ内房線の東側の旧市街地である。
		・学区には国道１６号バイパス道路と旧道が並行して走り、交通量が多い場所がある。
		・給食は親子方式であり、自校で調理している。

波岡小学校

児童数・学級数の推移	年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	児童数	223	216	232	226	233	231	228
	学級数	9 (2)	9 (2)	10 (2)	9 (2)	9 (2)	9 (2)	9 (2)
施設関係	建設年度		就学可能学級数			他の用途で使用している教室		
	S35・40・ 48・54		16			5		
	他の用途で使用している教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況							
	児童会室１、多目的室４							

現状と課題	1 教室は足りているか	・足りている。
	2 敷地面積は十分か	・十分である。
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道４ｋｍ以内である。
	5 将来的な児童数の展望は	・ほぼ横ばいと予想される。
	6 学校の位置は適当か	・学区のやや南西部に位置している。
	7 その他	・昭和４０年代からの大久保・八幡台など相次ぐ宅地造成により急速に宅地化が進行した。
		・通学区域見直しにより、平成１８年度から畑沢４丁目、港南台１・２・５丁目が波岡小学区となった。
		・国道１２７号バイパスと片側一車線の狭い市道に接しているため、通学の安全性確保が課題である。
		・建物敷地と運動場に借用地がある。
		・給食は親子方式であり、自校で調理している。

鎌足小学校

児童数・学級数の推移	年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	児童数	78	78	83	83	87	81	93
	学級数	6 (2)	6 (2)	6 (2)	6 (2)	6 (2)	6 (2)	6 (2)

施設関係	建設年度	就学可能学級数	他の用途で使用している教室
	S43・49・63	7	1
	他の用途で使用している教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況		
	郷土資料室1		

現状と課題		
	1 教室は足りているか	・足りている。
	2 敷地面積は十分か	・国の設置基準を満たしている。
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。
	4 通学距離は適当か	・一部片道４kmを超える地域がある。（５km以内）
	5 将来的な児童数の展望は	・増加傾向と予想される。
	6 学校の位置は適当か	・学区のやや北西部に位置している。
	7 その他	・学区の大半が市街化調整区域であるため、将来的にも児童数の大幅増は見込めない状況である。
		・給食は親子方式であり、自校で調理している。
		・特別支援学級の２学級については、普通教室より小さい教室を使用しているため、就学可能学級数に含まれていない。

金田小学校

児童数・学級数の推移	年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	児童数	201	224	256	295	336	381	419
	学級数	8 (2)	9 (2)	10 (2)	11 (2)	13 (2)	14 (2)	16 (2)

施設関係	建設年度	就学可能学級数	他の用途で使用している教室
	S3・40・41	11	1
	他の用途で使用している教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況		
	会議室１		

現状と課題		
	1 教室は足りているか	・３年度までは足りるが、それ以降は足りなくなる可能性が高い。
	2 敷地面積は十分か	・十分である。
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道３．５ｋｍ以内である。
	5 将来的な児童数の展望は	・大幅な増加が予想される。
	6 学校の位置は適当か	・学区の南部に位置している。
	7 その他	・東京湾アクアラインの接岸地であり、観光業の発展がみられる。
		・現在、土地区画整理事業が進んでおり、人口が急増する可能性の高い地域である。
		・給食は親子方式であり、自校で調理している。

中郷小学校

児童数・学級数の推移	年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	児童数	76	80	85	90	85	83	75
	学級数	※6 (2)	6 (2)	6 (2)	6 (2)	6 (2)	6 (2)	6 (2)

施設関係	建設年度	就学可能学級数	他の用途で使用している教室
	H31	6	0
	他の用途で使用している教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況		

現状と課題		
	1 教室は足りているか	・足りている。
	2 敷地面積は十分か	・十分である。
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道４km以内である。
	5 将来的な児童数の展望は	・ほぼ横ばいと予想される。
	6 学校の位置は適当か	・学区の北部に位置している。
	7 その他	・学区の大半が市街化調整区域であるため、将来的にも児童数の大幅増は見込めない状況である。
		・建物敷地に借用地がある。
		・平成３１年度、校舎が新設された。
		・小規模特認校である。
		・給食は親子方式であり、自校で調理している。
		・特別支援学級の２学級については、普通教室より小さい教室を使用しているため、就学可能学級数に含まれていない。

※本来は複式学級になるところを増置教員を活用し、複式学級化を防いでいる。

富来田小学校

児童数・学級数の推移	年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	児童数	181	179	186	174	159	155	147
	学級数	6 (2)	6 (2)	6 (2)	6 (2)	6 (2)	6 (2)	6 (2)

施設関係	建設年度	就学可能学級数	他の用途で使用している教室
	S55 H4・23	12	4
	他の用途で使用している教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況		
	会議室１、多目的室３		

現状と課題		
	1 教室は足りているか	・足りている。
	2 敷地面積は十分か	・十分である。
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。
	4 通学距離は適当か	・一部片道４kmを超える地域がある。（９km以内）
	5 将来的な児童数の展望は	・減少傾向と予想される。
	6 学校の位置は適当か	・学区のやや西部に位置している。
	7 その他	・平成３０年度末に、富岡小学校と統合し、校名が富来田小学校となった。また平成３１年度に富来田中学校と併せ、小中一貫校となった。
		・学区が広範囲のため、山間地の児童には自転車通学を許可している。
		・富岡地区の児童はスクールバスで通学している。
		・給食は親子方式であり、自校で調理している。

畑沢小学校

児童数・学級数の推移	年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	児童数	557	572	558	560	552	517	498
	学級数	19 (4)	19 (4)	18 (4)	18 (4)	18 (4)	18 (4)	17 (4)

施設関係	建設年度	就学可能学級数	他の用途で使用している教室
	S53・54・H3	24	1
	他の用途で使用している教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況		
	児童会室１		

現状と課題	1 教室は足りているか	・足りている。
	2 敷地面積は十分か	・十分である。
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道３．５km以内である。
	5 将来的な児童数の展望は	・やや減少傾向と予想される。
	6 学校の位置は適当か	・学区のやや南部に位置している。
	7 その他	・学区は市南西部に位置している。
		・畑沢土地区画整理事業の宅地造成に伴い、昭和５３年４月に波岡小学校から分離し、開校した。
		・木更津市学校給食センター受配校である。

請西小学校

児童数・学級数の推移	年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	児童数	491	504	498	488	506	493	490
	学級数	15 (3)	16 (3)	16 (3)	16 (3)	17 (3)	17 (3)	17 (3)

施設関係	建設年度	就学可能学級数	他の用途で使用している教室
	S54・56・H3・15	32	14
	他の用途で使用している教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況		
	学年室６、研修室１、外国語教室１、児童会室１、書写学習室１、多目的室１、ＰＴＡ室１、資料倉庫１、書庫(市役所文書保存)１		

現状と課題	1 教室は足りているか	・足りている。
	2 敷地面積は十分か	・十分である。
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道２ｋｍ以内である。
	5 将来的な児童数の展望は	・ほぼ横ばいと予想される。
	6 学校の位置は適当か	・学区の北端に位置している。
	7 その他	・昭和５４年４月に木更津第二小学校及び清見台小学校から分離し、開校した。
		・平成２６年4月に真舟小学校と分離した。
		・平成２９年７月より請西千束台土地区画整理区域が学区となった。
		・木更津市学校給食センター受配校である。

八幡台小学校

児童数・学級数の推移	年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	児童数	879	864	833	775	700	640	575
	学級数	27 (4)	26 (4)	25 (4)	23 (4)	22 (4)	21 (4)	20 (4)
施設関係	建設年度		就学可能学級数			他の用途で使用している教室		
	S56・57・59 H23・27		31			1		
	他の用途で使用している教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況							
	会議室１							

現状と課題	1 教室は足りているか	・足りている。
	2 敷地面積は十分か	・十分である。
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道２．５km以内である。
	5 将来的な児童数の展望は	・大幅な減少が予想される。
	6 学校の位置は適当か	・学区の西部に位置している。
	7 その他	・羽鳥野地区の人口急増に伴い、児童数が増加した。
		・通勤時間帯の交通量が非常に多い。
		・平成２３年、平成２７年にそれぞれ校舎を増設した。
		・給食は親子方式であり、自校で調理している。
		・特別支援学級の４学級のうち１学級については、普通教室より小さい教室を使用しているため、就学可能学級数に含まれていない。

真舟小学校

児童数・学級数の推移	年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	児童数	978	1026	1028	1039	1010	967	921
	学級数	30 (3)	31 (3)	31 (3)	30 (3)	30 (3)	29 (3)	28 (3)
施設関係	建設年度		就学可能学級数			他の用途で使用している教室		
	H26・30		38			5		
	他の用途で使用している教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況							
	多目的室１、英語ルーム１、視聴覚室１、少人数教室２							

現状と課題	1 教室は足りているか	・足りている。
	2 敷地面積は十分か	・十分である。
	3 施設は整備されているか	・アリーナ(屋内運動場)、プール有り。
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道２ｋｍ以内である。
	5 将来的な児童数の展望は	・やや減少傾向と予想される。
	6 学校の位置は適当か	・学区のほぼ中央に位置している。
	7 その他	・児童増に伴い、木更津第二小学校から真舟地区が、請西小学校から請西南１～５丁目、請西東６～８丁目、請西地区の一部が分離し、設立された。
		・児童の急増に伴い、平成３０年度に８教室を増設した。
		・平成２９年７月より請西千束台土地区画整理区域が真舟小学区から請西小学区となった。
		・木更津市学校給食センター受配校である。

《中学校１２校》

木更津第一中学校

生徒数・学級数の推移	年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	生徒数	320	335	312	305	283	279	286
	学級数	10 (2)	11 (2)	9 (3)	9 (3)	9 (3)	9 (2)	9 (3)

施設関係	建設年度	就学可能学級数	他の用途で使用している教室
	S43・44	17	5
	他の用途で使用している教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況		
	進路指導室１、カウンセリング室１、生徒会室１、指導室１、教材室１		

現状と課題		
	1 教室は足りているか	・足りている。
	2 敷地面積は十分か	・十分である。
	3 施設は整備されているか	・体育館、武道場有り。
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道３ｋｍ以内である。
	5 将来的な生徒数の展望は	・やや減少傾向と予想される。
	6 学校の位置は適当か	・学区の中心部に位置している。
	7 その他	・通学区域は、木更津第一小学区と西清小学校の一部学区である。
		・通学区域内に大型マンションの建築が予定されている。
		・昭和５６年度の学区再編により、朝日２・３丁目、長須賀が学区に編入された。
		・木更津市学校給食センター受配校である。

木更津第二中学校

生徒数・学級数の推移	年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	生徒数	537	480	461	480	540	555	559
	学級数	15 (3)	14 (3)	14 (3)	14 (3)	16 (3)	16 (3)	16 (2)

施設関係	建設年度	就学可能学級数	他の用途で使用している教室
	S47・48・50	18	1
	他の用途で使用している教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況		
	進路指導室１		

現状と課題		
	1 教室は足りているか	・４年度までは足りる見込みである。５年度以降は学年室を普通教室に転用して対応。
	2 敷地面積は十分か	・国の設置基準を満たしている。
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道３．５ｋｍ以内である。
	5 将来的な生徒数の展望は	・ほぼ横ばいと予想される。
	6 学校の位置は適当か	・学区の北部に位置している。
	7 その他	・通学区域は、木更津第二小学校と請西小学校の一部学区、真舟小学校の一部学区である。
		・学校のすぐ下を国道16号が通り、交通量が非常に多い。
		・生徒の急増に伴い、平成３１年４月の新入生より請西東６丁目～８丁目、請西南２丁目～４丁目が木更津二中学区から太田中学区に変更となった。
		・請西千束台土地区画整理事業区画の街開きにより、生徒数は更に多くなることが予想される。
		・木更津市学校給食センター受配校である。
		・特別支援学級３学級のうち、２学級については、１つの普通教室を分割し、２教室として使用しているため、就学可能学級数から学級数を引いても１教室分の差が生じている。

木更津第三中学校

生徒数・学級数の推移	年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	生徒数	276	310	344	330	304	292	304
	学級数	9 (3)	9 (2)	10 (3)	10 (3)	9 (3)	9 (3)	10 (3)

施設関係	建設年度	就学可能学級数	他の用途で使用している教室
	Ｈ２３	14	2
	他の用途で使用している教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況		
	学習室２		

現状と課題		
	1 教室は足りているか	・足りている。
	2 敷地面積は十分か	・十分である。
	3 施設は整備されているか	・体育館有り。
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道２．５km以内である。
		・平成３１年度より学区全域が片道３ｋｍ以内となった。
	5 将来的な生徒数の展望は	・やや増加傾向と予想される。
	6 学校の位置は適当か	・学区のやや南西部に位置している。
	7 その他	・通学区域は、西清小学校の一部学区と祇園小学校の一部学区であるが、通学区域見直しにより、平成３１年４月の新入生より祇園小学区全てが木更津第三中学区となった。
		・平成２２年度、校舎を全面改築した。
		・給食は親子方式であり、八幡台小で調理している。

岩根中学校

生徒数・学級数の推移	年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	生徒数	191	191	222	222	222	192	197
	学級数	6 (3)	6 (3)	7 (3)	7 (2)	7 (2)	6 (2)	6 (2)

施設関係	建設年度	就学可能学級数	他の用途で使用している教室
	S46・47・48・51	18	9
	他の用途で使用している教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況		
	学年室２、多目的室４、生徒会室１、ＰＴＡ活動室１、準備室１		

現状と課題		
	1 教室は足りているか	・足りている。
	2 敷地面積は十分か	・十分である。
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道３．５km以内である。
	5 将来的な生徒数の展望は	・ほぼ横ばいと予想される。
	6 学校の位置は適当か	・学区の北東部に位置している。
	7 その他	・通学区域は高柳小学区であり、ＪＲ内房線の東側の市街地である。
		・学区には国道１６号バイパス道路と旧道が並行して走り、交通量が多い場所がある。
		・給食は親子方式であり、高柳小で調理している。

鎌足中学校

生徒数・学級数の推移	年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	生徒数	46	44	41	48	43	49	42
	学級数	3 (0)	3 (1)	3 (1)	3 (1)	3 (2)	3 (2)	3 (2)

施設関係	建設年度	就学可能学級数	他の用途で使用している教室
	S60	3	0
	他の用途で使用している教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況		

現状と課題		
	1 教室は足りているか	・４年度までは足りている。５年度は会議室を特別支援学級へ転用することで対応可能だと思われる。
	2 敷地面積は十分か	・十分である。
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道４．５km以内である。
	5 将来的な生徒数の展望は	・やや減少傾向と予想される。
	6 学校の位置は適当か	・学区の北西部に位置している。
	7 その他	・通学区域は鎌足小学区である。
		・学区の大半が市街化調整区域であるため、将来的にも生徒数の大幅増は見込めない状況である。
		・給食は親子方式であり、鎌足小で調理している。
		・特別支援学級の２学級については、普通教室より小さい教室を使用しているため、就学可能学級数に含まれていない。

金田中学校

生徒数・学級数の推移	年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	生徒数	73	79	78	93	102	118	118
	学級数	3 (2)	3 (2)	3 (2)	3 (2)	3 (2)	4 (2)	5 (2)

施設関係	建設年度	就学可能学級数	他の用途で使用している教室
	S41	7	2
	他の用途で使用している教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況		
	会議室１、適応教室・生徒会室１		

現状と課題		
	1 教室は足りているか	・７年度までは足りる見込みである。
	2 敷地面積は十分か	・十分である。
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道３．５km以内である。
	5 将来的な生徒数の展望は	・大幅な増加が予想される。
	6 学校の位置は適当か	・学区の南部に位置している。
	7 その他	・通学区域は金田小学区である。
		・大型商業施設の進出や土地区画整理事業が施行されたことにより、人口の急増が予想される。
		・給食は親子方式であり、金田小で調理している。

富来田中学校

生徒数・学級数の推移	年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	生徒数	110	100	88	89	90	88	77
	学級数	4 (2)	3 (2)	3 (2)	3 (2)	3 (2)	3 (2)	3 (1)

施設関係	建設年度	就学可能学級数	他の用途で使用している教室
	S48	11	5
	他の用途で使用している教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況		
	適応指導室２、国際理解教室１、多目的室２		

現状と課題	1 教室は足りているか	・足りている。
	2 敷地面積は十分か	・十分である。
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール、武道場有り。
	4 通学距離は適当か	・一部片道６kmを超える地域がある。（１０km前後）
	5 将来的な生徒数の展望は	・大幅な減少が予想される。
	6 学校の位置は適当か	・学区のほぼ中心部に位置している。
	7 その他	・通学区域は、富来田小学区である。
		・市内で最も学区が広く、市原市・袖ケ浦市・君津市に隣接している。
		・平成３１年度に富来田小学校と併せ、小中一貫校となった。
		・給食は親子方式であり、富来田小で調理している。

太田中学校

生徒数・学級数の推移	年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	生徒数	580	627	702	695	702	708	724
	学級数	17 (3)	18 (4)	20 (4)	20 (5)	20 (4)	20 (3)	20 (3)

施設関係	建設年度	就学可能学級数	他の用途で使用している教室
	S52・55・63 H23	20	0
	他の用途で使用している教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況		

現状と課題	1 教室は足りているか	・２年度は足りるが、３年度以降は校舎増築で対応。
	2 敷地面積は十分か	・十分である。
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道３km以内である。
		・平成３１年度より学区全域が片道３．５ｋｍ以内となった。
	5 将来的な生徒数の展望は	・大幅な増加が予想される。
	6 学校の位置は適当か	・学区のほぼ中心部に位置している。
	7 その他	・現時点での通学区域は、清見台小学区と請西小学校の一部学区である。
		・平成３１年度の新入生より、真舟小学区の請西東６～８丁目、請西南２～４丁目が木更津第二中学校学区より、太田中学校区となった。
		・請西南地区の人口の増加に伴い、更に生徒数が増えることが予想される。
		・木更津市学校給食センター受配校である。

畑沢中学校

生徒数・学級数の推移	年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	生徒数	399	369	343	330	324	349	341
	学級数	12 (2)	11 (3)	10 (3)	10 (3)	9 (3)	10 (3)	10 (2)

施設関係	建設年度	就学可能学級数	他の用途で使用している教室
	S55･56・59	16	4
	他の用途で使用している教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況		
	会議室１、生徒会室１、多目的室１、進路相談室１		

現状と課題	1 教室は足りているか	・足りている。
	2 敷地面積は十分か	・十分である。
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道２．５km以内である。
	5 将来的な生徒数の展望は	・やや減少傾向と予想される。
	6 学校の位置は適当か	・学区の東部に位置している。
	7 その他	・通学区域は、畑沢小学区と波岡小学校の一部学区である。
		・市西南部に位置している。
		・昭和５５年４月に木更津第二中学校から分離し、開校した。
		・木更津市学校給食センター受配校である。
		・特別支援学級の２学級については、普通教室より小さい教室を使用しているため、就学可能学級数に含まれていない。

岩根西中学校

生徒数・学級数の推移	年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	生徒数	180	164	143	142	149	154	153
	学級数	6 (2)	6 (2)	6 (2)	6 (3)	6 (3)	6 (2)	6 (2)

施設関係	建設年度	就学可能学級数	他の用途で使用している教室
	S57	12	4
	他の用途で使用している教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況		
	学習室３、視聴覚室１		

現状と課題	1 教室は足りているか	・足りている。
	2 敷地面積は十分か	・十分である。
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道３ｋｍ以内である。
	5 将来的な生徒数の展望は	・やや減少傾向と予想される。
	6 学校の位置は適当か	・学区のほぼ中心部に位置している。
	7 その他	・通学区域は岩根小学校であり、ＪＲ内房線西側の旧市街地である。
		・建物敷地と運動場に借用地がある。
		・給食は親子方式であり、岩根小で調理している。

波岡中学校

生徒数・学級数の推移	年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	生徒数	407	449	482	488	496	498	493
	学級数	11 (3)	13 (3)	14 (3)	15 (2)	15 (2)	15 (3)	15 (3)

施設関係	建設年度	就学可能学級数	他の用途で使用している教室
	S58	20	7
	他の用途で使用している教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況		
	学年職員室１、特活室２、学習室２、適応指導教室１、資料室（旧施設課文書保存）1		

現状と課題	1 教室は足りているか	・足りている。
	2 敷地面積は十分か	・十分である。
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道４km以内である。
	5 将来的な生徒数の展望は	・増加傾向と予想される。
	6 学校の位置は適当か	・学区の南西部に位置している。
	7 その他	・通学区域は、波岡小学校の一部学区と八幡台小学区である。
		・大久保、八幡台、羽鳥野といった宅地造成地を有する地域である。
		・給食は親子方式であり、波岡小で調理している。

清川中学校

生徒数・学級数の推移	年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
	児童数	366	345	334	335	337	316	294
	学級数	11 (2)	10 (2)	10 (2)	10 (2)	10 (3)	9 (3)	9 (4)

施設関係	建設年度	就学可能学級数	他の用途で使用している教室
	S60	12	1
	他の用途で使用している教室（普通教室に転用可能な教室）の活用状況		
	学年室１		

現状と課題	1 教室は足りているか	・足りている。
	2 敷地面積は十分か	・十分である。
	3 施設は整備されているか	・体育館、プール有り。
	4 通学距離は適当か	・学区全域が片道６ｋｍ以内である。
	5 将来的な生徒数の展望は	・減少傾向と予想される。
	6 学校の位置は適当か	・学区の北西部に位置している。
	7 その他	・通学区域は、祇園小学校の一部学区、東清小学区、南清小学区であるが、通学区域見直しにより平成３１年度の新入生より祇園小学区は全て木更津第三中学区となった。
		・昭和６０年４月に木更津第三中学校から分離し、開校した。
		・中郷中学校との統合により、平成３１年度より中郷小学区の児童は清川中学校に通うこととなった。
		・給食は親子方式であり、祇園小で調理している。
		・特別支援学級の２学級については、普通教室より小さい教室を使用しているため、就学可能学級数に含まれていない。

Ⅱ　本市における小中学校の適正規模

はじめに、平成２３年１０月に策定された「木更津市立小中学校の適正規模及び適正配置に関する基本方針」において定められた木更津市における適正規模の考え方を確認しました。

小学校	１２学級から１８学級（１学年　２～３学級）
中学校	９学級から１８学級（１学年　３～６学級）

※平成 23 年 10 月策定　木更津市立小中学校の適正規模及び適正配置に関する基本方針における基準

続いて、平成２７年１月に文部科学省より出された「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」で、望ましい学級数の考え方を確認しました。

小学校	小学校では、まず複式学級を解消するためには少なくとも１学年１学級以上（６学級以上）であることが必要となります。また、全学年でクラス替えを可能としたり、学習活動の特質に応じて学級を超えた集団を編成したり、同学年に複数教員を配置するためには１学年２学級以上（１２学級以上）あることが望ましいものと考えられます。
中学校	中学校についても、全学年でクラス替えを可能としたり、学級を超えた集団編成を可能としたり、同学年に複数教員を配置するためには、少なくとも１学年２学級以上（６学級以上）が必要となります。また、免許外指導をなくしたり、全ての授業で教科担任による学習指導を行ったりするためには、少なくとも９学級以上を確保することが望ましいものと考えられます。

また、文部科学省が作成した資料をもとに、小規模校と大規模校における一般的なメリットとデメリットを確認しました。

○小規模

項目	メリット	デメリット
学習面	・児童・生徒の一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細かな指導が行いやすい。 ・学校行事や部活動等において、児童・生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しやすい。	・集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。 ・運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に制約が生じやすい。 ・部活動等の設置が制限され、選択の幅が狭まりやすい。

生活面	・児童･生徒相互の人間関係が深まりやすい。 ・異学年間の縦の交流が生まれやすい。	・クラス替えが困難なことなどから、人間関係や相互の評価等が固定化しやすい。 ・切磋琢磨する機会等が少なくなりやすい。
学校運営面･財政面	・全教職員間の意思疎通が図りやすく、相互の連携が密になりやすい。 ・学校が一体となって活動しやすい。 ・施設･設備の利用時間等の調整が行いやすい。	・教職員数が少ないため、経験、教科、特性などの面でバランスのとれた配置を行いにくい。 ・学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談･研究･協力･切磋琢磨等が行いにくい。 ・一人に複数の校務分掌が集中しやすい。
その他	・保護者や地域社会との連携が図りやすい。	・ＰＴＡ活動等における保護者一人当たりの負担が大きくなりやすい。

○大規模

項目	メリット	デメリット
学習面	・集団の中で、多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、一人ひとりの資質や能力をさらに伸ばしやすい。 ・運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に活気が生じやすい。 ・様々な種類の部活動等の設置が可能となり、選択の幅が広がりやすい。	・全教職員による各児童・生徒一人ひとりの把握が難しくなりやすい。 ・学校行事や部活動等において、児童・生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しにくい。

生活面	・クラス替えがしやすいことなどから、豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成が図られやすい。 ・切磋琢磨すること等を通じて、社会性や協調性、たくましさ等を育みやすい。 ・学校全体での組織的な指導体制を組みやすい。	・学年内・異学年間の交流が不十分になりやすい。 ・全教職員による各児童・生徒一人ひとりの把握が難しくなりやすい。
学校運営面・財政面	・教員数がある程度多いため、経験、教科、特性などの面でバランスのとれた教職員配置を行いやすい。 ・学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いやすい。 ・校務分掌を組織的に行いやすい。	・教職員相互の連絡調整が図りづらい。 ・特別教室や体育館等の施設・設備の利用の面から、学校活動に一定の制約が生じる場合がある。
その他	・ＰＴＡ活動等において、役割分担により、保護者の負担を分散しやすい。	・保護者や地域社会との連携が難しくなりやすい。

※学校の適正配置に関して都道府県・市町村が作成している計画等を参考に、文部科学省において作成した資料から抜粋

これらを参考にして、本市における小中学校の適正規模を以下のとおり定めました。

まず、小中学校ともに全ての学年において、学習内容に適した集団編成（少人数教育）やクラス替えが可能となり、より効果的な学校行事等諸活動が行える下限の規模から、「適正規模の基準（望ましい学級数）」を決定しました。

併せて小学校においては複式学級の解消、中学校においては「集団の中で、多様な考え方に触れる機会が少なくなりやすいこと」や、「部活動等の設置が制限され、選択の幅が狭まりやすいこと」等を考慮し、「必要な学級数の目安」を設定しました。

《本市における小中学校の適正規模》

	適正規模の基準（望ましい学級数）	必要な学級数の目安
小学校	１２～１８学級（１学年２～３学級）	６学級以上（１学年１学級以上）
中学校	９～１８学級（１学年３～６学級）	６学級以上（１学年２学級以上）

※平成 30 年度、令和元年度開催の本審議会における基準

Ⅲ　本市における小中学校の適正配置のあり方

１　課題整理のポイント

本市における小中学校の配置の適正化を検討するにあたっては様々な視点がありますが、以下の視点に絞って、各学校の今後のあり方について検討することとしました。

（１）「適正規模の基準（望ましい学級数）」と「必要な学級数の目安」に関すること

・必要な学級数の目安に満たない学校、適正規模の基準を上回る学校の解消を目指す。

（２）教室数に関すること

・教室数が不足していないか確認をする。

（３）敷地面積に関すること

・校舎や運動場の広さなど、学校施設の状況を把握する。

（４）通学距離に関すること

・児童生徒にとって著しい負担にならないよう配慮する。小学校は概ね４ｋｍ以内、中学校は概ね６ｋｍ以内、通学時間は概ね１時間以内を目安とする。

（５）個々の学校に応じたその他の課題に関すること

・「一つの小学校から複数の中学校へ進学」、「通学における安全面」等を考慮する。

２　適正配置に向けての学校規模別の方策

小中学校の配置を適正化するための方策としては、「通学区域の変更」、「学校の統合」等が考えられます。

そこで、本市における小中学校の適正規模に照らし、学校規模別に適正配置に向けての方策を次のとおり整理しました。

（１）小規模校に対する方策

小規模校の適正配置については、適正規模化に向けて、児童生徒数の将来推計によっては隣接校との学校統合あるいは小規模特認校への指定などの方策が考えられます。

（２）適正規模校に対する方策

現在適正規模の学校であっても、将来の児童生徒数の展望や立地条件等を見据えて、適正配置を検討する必要があり、通学区域の変更などの方策が考えられます。

（３）大規模校に対する方策

大規模校の適正配置については、児童生徒の将来推計によっては、教育環境の整備のため、校舎増築や隣接する学校との通学区域の変更などの方策が考えられます。

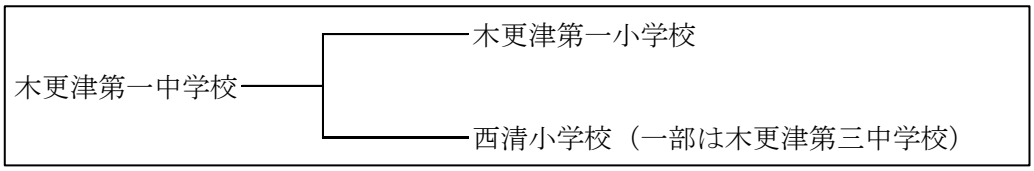
３　適正配置に向けての学校ごとの方策

課題整理のポイント及び前回の答申や「木更津市立小中学校の適正規模及び適正配置に関する基本方針」を加味して、全ての学校について検討しました。

学校ごとに検討した結果は、以下のとおりです。

（１）学校ごとの方策

①木更津第一中学校区について



■木更津第一中学校

木更津第一中学校は、教室数、敷地面積、通学距離とも問題なく、現在１０学級の適正規模校です。今後の生徒数はやや減少傾向ですが、当面の間は適正規模校であることが予想されます。

以上のことから、木更津第一中学校については、当面現状維持が望ましいと考えます。

●木更津第一小学校

木更津第一小学校は、教室数、通学距離とも問題ありません。敷地面積は、国の設置基準を満たしております。現在１３学級の適正規模校であり、今後の児童数はやや減少傾向であるものの、当面の間は適正規模校であることが予想されます。

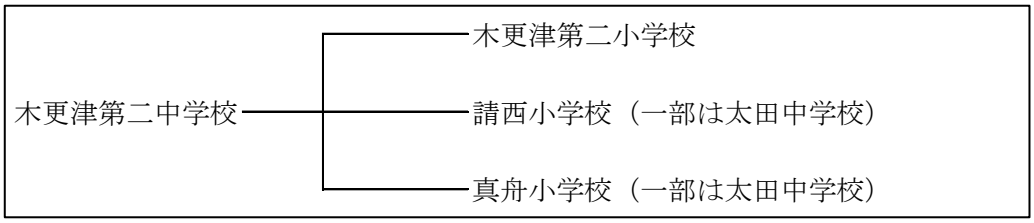
以上のことから、木更津第一小学校については、当面現状維持が望ましいと考えます。

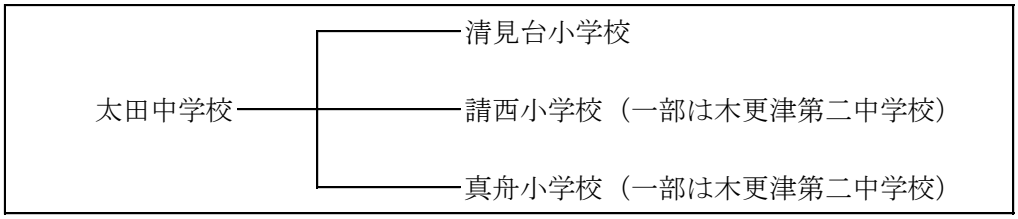
●西清小学校

西清小学校は、教室数、通学距離とも問題ありません。敷地面積は、国の設置基準を満たしています。現在１０学級と必要な学級数を満たしており、今後の児童数は大幅な増加傾向となっているため、令和６年度からは適正規模校にもなることが予想されます。

進学先が木更津第一中学校と木更津第三中学校に分かれていることが課題になりますが、今後は児童数が増えて、適正規模校にもなっていくことが予想されることから、西清小学校については、当面現状維持が望ましいと考えます。

②木更津第二中学校区及び太田中学校区について





■木更津第二中学校

木更津第二中学校は、教室数、敷地面積とも問題なく、現在１５学級の適正規模校です。請西千束台地区を通学区域に含むことから、今後、生徒数が増える可能性もありますが、当面の間は適正規模校であることが予想されます。

敷地面積ですが、国の設置基準を満たしているものの、運動場面積は十分とはいえず、部活動にも影響があるため、生徒の活動場所を増やす取り組みを検討しました。

今後は学校外の練習場所を更に確保することや、校地内の施設等のあり方を見直すなど、運動場として使用できる面積の拡充に向けた努力が必要であると考えます。

●木更津第二小学校

木更津第二小学校は、教室数、敷地面積、通学距離とも問題なく、現在１６学級の適正規模校です。今後の児童数はやや減少傾向であるものの、引き続き適正規模校であることが予想されます。

以上のことから、木更津第二小学校については、当面現状維持が望ましいと考えます。

●請西小学校

請西小学校は、教室数、敷地面積、通学距離とも問題なく、現在１５学級の適正規模校です。今後の児童数はほぼ横ばいであることから、引き続き適正規模校であることが予想されます。なお、請西千束台地区が平成２９年度より、真舟小学校区から請西小学校区となったため、今後は、社会的要因により児童数が増加する可能性もありますが、多くの就学可能な教室を保有していることから、教室数が足りなくなる可能性は低いものと考えられます。

進学先が木更津第二中学校と太田中学校に分かれているという課題はありますが、請西小学校については、当面現状維持が望ましいと考えます。

●真舟小学校

真舟小学校は、教室数、敷地面積、通学距離とも問題ありませんが、現在３０学級と適正規模を上回る学校規模です。今後の児童数はやや減少傾向であるものの、引き続き適正規模を上回ることが予想されます。

また、進学先が木更津第二中学校と太田中学校に分かれているという課題もありますが、校舎増築により、教室数の不足が解消されたことや今後の児童数はやや減少傾向に向かうと予想されることなどを考えますと、真舟小学校については、当面現状維持が望ましいと考えます。

■太田中学校

太田中学校は、生徒数が大幅に増加しているため、令和３年度を目途に７教室を増築予定であることから、教室数の不足は解消され、敷地面積、通学距離とも問題ありません。現在１７学級の適正規模校です。

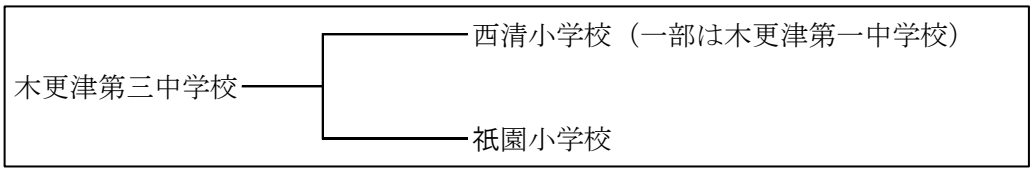
生徒数の大幅な増加により、令和３年度からは適正規模を上回る学校になると予想されていますが、校舎増築により、教室数の不足が解消されることから、太田中学校については、当面現状維持が望ましいと考えます。

●清見台小学校

清見台小学校は、教室数、敷地面積、通学距離とも問題なく、現在１８学級の適正規模校です。今後の児童数はやや減少傾向であるものの、引き続き適正規模校であることが予想されます。

以上のことから、清見台小学校については、当面現状維持が望ましいと考えます。

③木更津第三中学校区



■木更津第三中学校

木更津第三中学校は、教室数、敷地面積、通学距離とも問題なく、現在９学級の適正規模校です。今後の生徒数はやや増加傾向であり、引き続き適正規模校であることが予想されます。

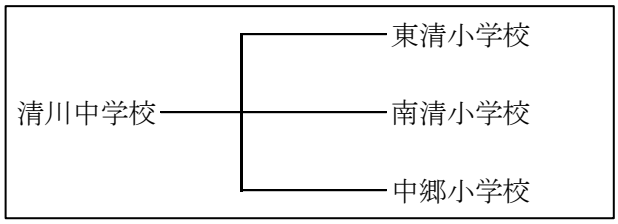
以上のことから、木更津第三中学校については、当面現状維持が望ましいと考えます。

●祇園小学校

祇園小学校は、教室数、敷地面積、通学距離とも問題なく、現在１８学級の適正規模校です。今後の児童数はやや減少傾向であるものの、引き続き適正規模校であることが予想されます。

以上のことから、祇園小学校については、当面現状維持が望ましいと考えます。

④清川中学校区について



■清川中学校

清川中学校は、教室数、敷地面積、通学距離とも問題なく、現在１１学級の適正規模校です。今後の生徒数は減少傾向であるものの、引き続き適正規模校であることが予想されます。

以上のことから、清川中学校については、当面現状維持が望ましいと考えます。

●南清小学校

南清小学校は、教室数、敷地面積とも問題なく、現在１６学級の適正規模校です。今後、児童数は大幅な減少が見られるものの、引き続き適正規模校であることが予想されます。

以上のことから、南清小学校については、当面現状維持が望ましいと考えます。

●東清小学校

東清小学校は、教室数、敷地面積、通学距離とも問題ありません。現在６学級と最低限必要な学級数を満たしていますが、児童数の減少により、令和３年度から複式学級が発生し、令和４年度には*増置教員が学級担任となっても、複式学級が生じると予想されます。そして、令和７年度からは全ての学級が複式学級となり、最低限必要な学級数を維持できない見込みとなることから、今後の東清小学校のあり方について検討しました。

小規模特認校制度により、平成３０年度は全校児童５４名中６名、平成３１年度は全校児童６１名中１０名が東清小学校に通学しましたが、大幅な児童数増加には至りませんでした。

このことから、引き続き小規模特認校制度を活用したとしても、必要な学級数に達することは難しく、児童の教育環境の更なる向上を考慮すると、隣接校との統合が妥当であると考えます。

*増置教員･･･学校規模に応じて配当される教員である。例えば１～１２学級の小学校においては１名の教員が配置され、通常は教務主任にあてられる。また３・４学級の中学校においては４名の教員が学級担任に加えて配置されており、通常は学年主任に当てられる。

●中郷小学校

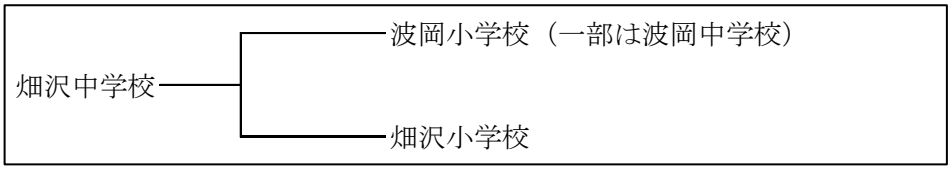
中郷小学校は、教室数、敷地面積、通学距離とも問題はありません。今年度、複式学級が１学級あるため、本来なら５学級ですが、増置教員を活用し、複式学級化を防いでいる

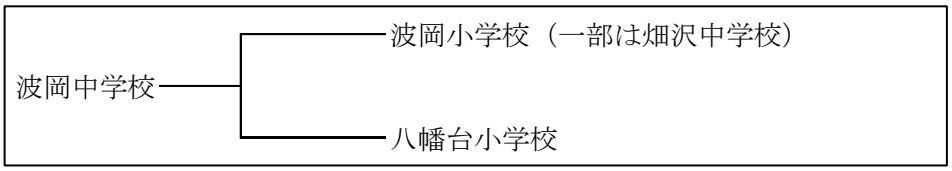
ことから、現在６学級です。

今年度は最低限必要な学級数を満たしていませんが、来年度以降は最低限必要な学級数を維持できる見込みであり、児童数はほぼ横ばいであると予想されます。

以上のことから、中郷小学校については、当面現状維持が望ましいと考えます。

⑤畑沢中学校区及び波岡中学校区について





■畑沢中学校

畑沢中学校は、教室数、敷地面積、通学距離とも問題なく、現在１２学級の適正規模校です。今後の生徒数はやや減少傾向であるものの、引き続き適正規模校であることが予想されます。

以上のことから、畑沢中学校については当面現状維持が望ましいと考えます。

●波岡小学校

波岡小学校は、教室数、敷地面積、通学距離とも問題なく、現在９学級と最低限必要な学級数を満たしています。今後の児童数はほぼ横ばいであり、引き続き最低限必要な学級数を維持できると予想されます。

過去に、畑沢小学校の児童数増加に対応するため、一部地域を畑沢小学校区から波岡小学校区に変更した経緯があります。また、進学先が畑沢中学校と波岡中学校に分かれています。更に、立地環境や通学の安全性等には課題が残されています。

そこで波岡小学校については当面現状維持としますが、将来的には畑沢小学校及び八幡台小学校との通学区域の変更等も考えられます。

●畑沢小学校

畑沢小学校は、教室数、敷地面積、通学距離とも問題なく、現在１９学級と適正規模を上回る学校です。児童数はやや減少傾向のため、今後は適正規模校になると予想されます。

過去に畑沢小学校の児童数増加に対応するため、一部地域を畑沢小学校区から波岡小学校区に変更した経緯があります。

以上のことから、当面現状維持としますが、将来的には波岡小学校との通学区域の変更等も考えられます。

■波岡中学校

波岡中学校は、教室数、敷地面積、通学距離とも問題なく、現在１１学級の適正規模校です。今後の生徒数は増加傾向であり、引き続き適正規模校であることが予想されます。

以上のことから、波岡中学校については当面現状維持が望ましいと考えます。

●八幡台小学校

八幡台小学校は、教室数、敷地面積、通学距離とも問題なく、現在２７学級と適正規模を上回る学校ですが、今後、児童数が大幅に減少するため、適正規模校になることが予想されることから、当面現状維持としますが、将来的には波岡小学校との通学区域の変更等も考えられます。

⑥鎌足中学校区について

鎌足中学校――――――――鎌足小学校

■鎌足中学校

鎌足中学校は、教室数、敷地面積、通学距離とも問題ありませんが、現在３学級と最低限必要な学級数を維持していません。今後も生徒数の大幅な増加は望めず、必要な学級数には達しないと予想されることから、今後の鎌足中学校のあり方について検討しました。

はじめに、「太田中学校との通学区域の変更」については、太田中学校は平成３１年度に通学区域の変更を行ったばかりということもあり、ふさわしくないと考えます。

次に、「近隣校との統合」という考えも出ましたが、これについては「時間をかけて慎重に検討すべき事項」ということで意見がまとまりました。

最終的には、「小規模特認校に指定し、増加を図ることが、現状として最善の策ではないか。」という結論に達しました。

●鎌足小学校

鎌足小学校は、教室数は問題なく、現在６学級と最低限必要な学級数を満たしています。今後の児童数は増加傾向であり、引き続き最低限必要な学級数を満たすことが予想されます。また敷地面積は国の基準を満たしています。

以上のことから、鎌足小学校は当面現状維持が望ましいと考えます。

⑦岩根中学校区について

岩根中学校――――――――高柳小学校

■岩根中学校

岩根中学校は、教室数、敷地面積、通学距離とも問題なく、現在６学級と最低限必要な学級数を満たしています。今後の生徒数はほぼ横ばいであり、引き続き最低限必要な学級数を維持することが予想されます。

以上のことから、岩根中学校は当面現状維持が望ましいと考えます。

●高柳小学校

高柳小学校は、教室数、敷地面積、通学距離とも問題なく、現在１３学級の適正規模校です。今後の児童数はほぼ横ばいであり、引き続き適正規模校であることが予想されます。

以上のことから、高柳小学校は当面現状維持が望ましいと考えます。

⑧岩根西中学校区について

岩根西中学校――――――――岩根小学校

■岩根西中学校

岩根西中学校は、教室数、敷地面積、通学距離とも問題なく、現在６学級の適正規模校です。生徒数はやや減少傾向であるものの、引き続き適正規模校であることが予想されます。

以上のことから、岩根西中学校は当面現状維持が望ましいと考えます。

●岩根小学校

岩根小学校は、教室数、敷地面積、通学距離とも問題なく、現在１２学級の適正規模校です。児童数はほぼ横ばいであり、引き続き適正規模校であることが予想されます。

以上のことから、岩根小学校は当面現状維持が望ましいと考えます。

⑨金田中学校区について

金田中学校――――――――金田小学校

■金田中学校

金田中学校は、教室数、敷地面積、通学距離とも問題ありませんが、現在３学級と最低限必要な学級数を満たしておらず、令和７年度まではその状態が続くことが予想されます。

しかし、土地区画整理事業が進展している関係で、今後、生徒数が大幅に増加することが予想されるため、金田中学校については、当面現状維持が望ましいと考えます。

●金田小学校

金田小学校は、敷地面積、通学距離とも問題なく、現在８学級と最低限必要な学級数を満たしており、今後は適正規模校となることが予想されます。

土地区画整理事業が進展している関係で児童数が増加していますが、令和３年度を目途に８教室を増築する予定であることから、教室数についても問題はありません。

以上のことから、金田小学校については当面現状維持が望ましいと考えます。

⑩富来田中学校区について

富来田中学校――――――――富来田小学校

■富来田中学校

富来田中学校は、教室数、敷地面積とも問題ありません。今年度より、富来田小学校と共に小中一貫教育を開始しましたが、現在４学級と最低限必要な学級数を満たしていません。今後は生徒数の大幅な減少が予想され、引き続き最低限必要な学級数を維持することができないと考えられます。

そのため、小中一貫教育を継続すると共に、小規模特認校に指定したうえで、生徒数の推移を注視しながら、将来的には統合を含め、時間をかけて慎重に検討すべきであると考えます。

●富来田小学校

富来田小学校は、富来田中学校と共に小中一貫教育を進めており、教室数、敷地面積とも問題なく、現在６学級と最低限必要な学級数を満たしています。児童数は減少傾向であるものの、引き続き最低限必要な学級数を満たすことが予想されます。

以上のことから、富来田小学校は当面現状維持が望ましいと考えます。

（２）学校予定地の利活用

小中学校の適正配置に向けての方策について、学校ごとに検討した結果、学校予定地の利活用については以下のとおりです。

①（仮称）桜井小学校予定地

面積は２０，１００．５８平方メートルであり、現在は、市民のスポーツ活動の場として使用しており、有効に活用されている現状があります。そのため、これまで同様、今後も桜井運動場として活用することが良いと考えます。

②（仮称）大久保小学校予定地

面積は１４，１８１．３平方メートルであり、そのうちの３，０００平方メートルを教育委員会が所有しております。現在は、市民のスポーツ活動の場として活用されている現状があります。そのため、これまで同様、今後も教育財産として活用を検討することが良いと考えます。

まとめ

平成２３年１０月に策定された「木更津市立小中学校の適正規模及び適正配置に関する基本方針」を見直すために、平成３０年７月１８日に本審議会が設置されました。審議会ではまず、各学校の現状と課題の把握に努めました。

そして、平成２７年に文部科学省から出された「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置に関する手引き」や「小規模校と大規模校における一般的なメリットとデメリット」等を参考にし、木更津市における小中学校の適正規模等の考え方を決定いたしました。

その後、本市の適正規模等の考え方に立って、課題整理のポイントを決定し、ポイントにしたがって、各校の今後のあり方について協議をし、まとめました。

「課題がある」とされた学校につきましては、視察をしたうえで、学校ごとの方策を考えました。とりわけ、「必要な学級数の目安」に達しないとされていた学校については時間をかけて協議をし、「適正規模の基準を上回る」学校についても、児童数や生徒数の推移を確認しながら、今後の方策と展望について確認をしました。

審議会は当初７回を予定しておりましたが、委員それぞれが児童生徒のことを最優先に考えた上で、様々な視点から意見を出し合った結果、９回を数えることとなりました。

審議会のまとめとして、東清小学校は、「近隣校との統合」、鎌足中学校及び富来田中学校では、「小規模特認校への指定」という答申となりました。

結びに、この答申により、本市の小中学校がよい教育環境を実現し、学校教育の一層の充実と、木更津市の児童生徒の学習活動や人間形成に大きな役割を果たすことを期待いたします。

【今後の展望】

○小学校　（令和７年度推計値）※学級数は特別支援学級を除く

規模	小学校	学級数	今後の展望
必要な学級数の目安を下回る学校《５学級以下》	東清小学校	３	・隣接校との統合
必要な学級数の目安を上回るが適正規模に足りない学校《６～１１学級》	波岡小学校 鎌足小学校 中郷小学校 富来田小学校	９ ６ ６ ６	・（小中一貫教育の実施）
適正規模校《１２～１８学級》	木更津第一小学校 木更津第二小学校 西清小学校 南清小学校 清見台小学校 祇園小学校 岩根小学校 高柳小学校 金田小学校 畑沢小学校 請西小学校	１２ １３ １２ １２ １７ １６ １２ １３ １６ １７ １７	・児童数の増加が予想されるため校舎を増築
適正規模を上回る学校《１９学級以上》	八幡台小学校 真舟小学校	２０ ２８	・児童数の減少が予想されるため推移を注視 ・校舎を増築済み

○中学校　（令和７年度推計値）※学級数は特別支援学級を除く

規模	中学校	学級数	今後の展望
必要な学級数の目安を下回る学校《５学級以下》	鎌足中学校 金田中学校 富来田中学校	３ ５ ３	・小規模特認校の指定 ・生徒数の増加が予想されるため推移を注視 ・小規模特認校の指定（小中一貫教育の実施）
必要な学級数の目安を上回るが適正規模に足りない学校《６～８学級》	岩根中学校 岩根西中学校	６ ６	
適正規模校《９～１８学級》	木更津第一中学校 木更津第二中学校 木更津第三中学校 畑沢中学校 波岡中学校 清川中学校	９ １６ １０ １０ １５ ９	
適正規模を上回る学校《１９学級以上》	太田中学校	２０	・生徒数の増加が予想されるため校舎を増築